



省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2026

(概要版)

1. 基本方針 (抄)

東海国立大学機構ではキャンパスのエネルギー消費削減を推進し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組み姿勢を地域社会へ積極的に示す。この取り組み指針の一つである「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」の下に、大学全体として構成員によるエネルギー使用の合理化を推進する。2026年度の省エネ・節電活動では、これまでの地道な取り組みの徹底を継続するとともに、施設整備による省エネ・節電対策にも重点をおいて活動を行う。

2. 省エネ・節電の重点項目

< 構成員の取り組み >

(1) 自習する教室の集約化による照明・空調のエネルギー削減

「自習で利用する教室」では、広い教室を少人数で分散使用する状況が見られるため、自習等で利用できる部屋を限定する。(利用を控える部屋を明示する)

(2) ドア・窓を閉めた冷暖房の徹底

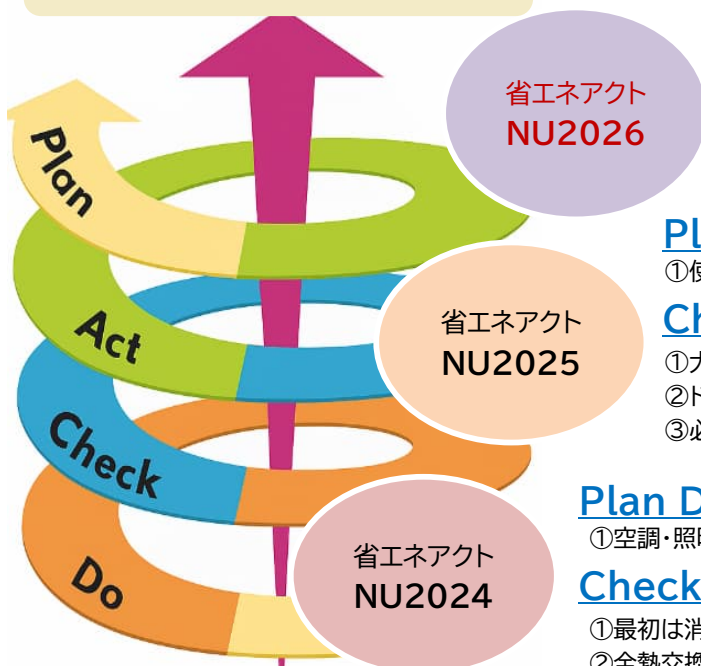
実態調査から入口ドアを開けて冷暖房していた教室が約2割確認された。換気扇等で適切な換気量を確保しつつ、ドア・窓を閉めて冷暖房を行うことを徹底する。

(3) 空調始動時の極端な空調温度設定の抑止

空調温度は原則、冷房27°C/暖房20°Cとし、これより極端な温度設定にしない^(※)。室内環境を勘案して設定温度を変更した場合は、必ず元に戻す。

※健康や安全管理に十分ご留意する等、利用状況にあわせて運用ください。

エネルギー消費総量由来のCO2排出量
2030年までに**51%以上削減**



Action Plan:

- ①自習における講義室の適正な利用
- ②ドア・窓を閉めた冷暖房の徹底
- ③空調始動時の極端な空調温度設定の抑止

Plan Do: 教室・共用部の空調・換気適正利用

- ①使用人数、②空調・換気ON/OFF・モード、③照明範囲

Check: 講義室の使用状況調査

- ①大きな講義室を自習室として少人数で利用
- ②ドアを開けたまま空調する教室が2割・過度な空調設定
- ③必要な範囲のみ照明を点灯

Plan Do: 空調・換気・照明の適正利用

- ①空調・照明スイッチのON/OFF、②全熱交換器モード

Check: 講義室の使用状況を調査

- ①最初は消し忘れや過度な空調温度設定 → 改善見られた
- ②全熱交換器:自動モードの選択が徹底されていない



省エネ特設サイト



エネルギー使用量